

アルトの皆様

土曜日は練習お疲れ様でした。

あいパルは響きが良くて歌いやすかったですね。

ずっと通しでの練習で多少の疲れもあると思いますが、泣いても笑っても本番まで後2回です。

悔いのないように頑張りましょうね。

では、練習日誌をお送りします。

●4月13日(土)14時00分～16時50分

●あいパル3階多目的ホール

●参加人数 S/11、A/15、T/3、B/4

○はじまり

- ・出だしの「はたけがあり」の「はたけ」は急がないで一音ずつ大事に歌う
- ・19小節「あるー」の4分休符は伴奏の最後のアクセントを感じて1.2.3で20小節「せなかをのぼして」に入る(指揮も必ず見る)

○雨

- ・出だしの「ふりしきれあめよ」は8割くらいの音量で支えは変えずに深い響きの声で、内面的な気持を表す
- ・4ページ上段「すべてたちすくむ」から音量を少しづつ戻す
- ・練習番号3から各パートがバラバラになるので、自分のパートの実音を出して、「ゆるしあう」の幸せと、練習4「ゆるしあえぬ」の悲しみを表現する
- ・練習番号6は、荒れて枯れた大地を感じて
- ・練習番号7は、雨と言う名の再生の粉をまいて見る見る回復する様子を感じて

○花

- ・「もしもあ-あなたが」「いいわけさえ-も」等ソラソの場所はしっかり上がる

○温かいシチュー

- ・59小節「あたらしい武器を～」アルトソロはmpなので力を抜いて気楽な気持ちで。カんでしまうと声が硬くなり目立ってしまうので
- ・70小節「よー」は一度ディクレッシェンドしてからクレッシェンドして、71小節「よー」は付点四分休符まで伸ばし過ぎない
- ・86小節から87小節「わたしたちのシチューのなんとにていること」pからfはしっかり変化する

○アルデバラン

- ・21小節、42小節、60小節の終わりの音は拍分最後まで減衰しないで歌って、休符を感じて他のパートと合わせる
- ・練習番号Hの歌い出しは突っ込まないでしっかりテンポを感じて

○母の手

- ・52小節「らー」は急にpにしないで、53小節のピアノ伴奏の最初の音にかからないようにする
- ・練習番号8は不安ではなく憧れの気持ちを持って、69小節「ひーがー」から「ほんとうに」はクレッシェンドのまま

ま急に弱くしないで

○等圧線

・34小節「みー」のfに向かう付点四分音符は少し早めに切ってブレスをする。そうしないと35小節「Aー」の入り
が間に合わないので

○AVE MARIA

- ・5ページ下段「Nuhc eh in ho-ra」までfのまま
- ・6ページ上段「Nuhc eh in ho-ra mor-tis」までfのまま

○Ave Verum

○Kyrie

- ・26小節と28小節「e-lei-son」の「e」はお腹の支えを使って

○Gloria

○Credo

- ・77小節「o-rum」の「rum」は4分音符で必ず切る

○Sanctus

- ・スタートの「San-ctus」は伴奏のリズムを体で感じてイメージしながら。

○Benedictus

○Agnus Dei

○あなたのことを

以上です

新里♪